

京都国立博物館で開幕 特別展「源氏物語 王朝のかがやき」



音声ガイドナビゲーターの俳優・塩野瑛久さん(中央)、松本館長(左から4人目)ら

京都国立博物館は10月5日、特別展「源氏物語 王朝のかがやき」の報道発表会を開催した。

京都国立博物館では約50年ぶり、東京国立博物館では初の開催となる特別展「源氏物語 王朝のかがやき」では、王朝文化の象徴「源氏物語」にかかわる美術の名品が集結するほか、現存最古の源氏絵・国宝「源氏物語絵巻」が場面を替えて全期間出品。「源氏物語」の場面やモチーフを表した美しい絵画、工芸品を一堂に展示し、本文を綴った写本やその注釈類、さらに芸能や大衆文化への広がりも紹介しながら、日本の文化に豊かなかがやきを与え続けた名作の魅力に迫るとしており、両国立博物館が総力を挙げて華やかな美と魅力を届ける、かつてない大展覧会となる。

会期は京都国立博物館が2026年10月6日から2026年11月29日まで、東京国立博物館が2027年1月19日から2027年3月14日まで。



東京国立博物館 開創700年記念 特別展「大徳寺 本朝無双之禅苑」展示風景



『観音猿鶴図』(牧谿筆、中国南宋時代・13世紀 大徳寺蔵)及び『龍虎図』(伝牧谿筆、中国南宋～元時代・13世紀 大徳寺蔵)の極致に迫る品が展示されるほか、歴代の名僧や戦国武将等、700年の歴史を紡いだ人物を紹介する。また、展示の最後には、三門「金毛閣」の楼上の内部を再現。本尊と千利休像を初公開する。

なお、同展は会期中、一部作品の展示替えを行う(前期・10月14日～11月8日、後期・11月10日～12月6日)。会期は12月6日まで。

非公開の名宝41年ぶりに公開

東博、開創700年記念 特別展「大徳寺 本朝無双之禅苑」

東京国立博物館平成館では10月14日、「開創700年記念 特別展「大徳寺 本朝無双之禅苑」」が開幕した。

京都・紫野に広がる大徳寺は、宗峰妙超(大燈国師)によって1326年に開山して以来、一休宗純や沢庵宗彭などの名僧が輩出したほか、天皇や戦国武将、また千利休をはじめとする茶人たちからも篤い信仰を集め、発展してきた。

同展は、大徳寺が今年で開創700年を迎えることを記念し、同館において大徳寺の寺宝を一堂に集め、その歴史と文化を広く紹介するもの。通常非公開の名宝が一堂に会する展覧会は41年ぶり、東京では初開催となる。大徳寺を「本朝無双の禅苑」と讃え天皇の書など名宝の数々や、水墨芸術の最高傑作と評される国宝『観音猿鶴図』、世界でわずか3点しか現存しない国宝『曜変天目』等、

禅と茶の湯、美